

令和5年度 北海道教育功績者表彰被表彰者

No. 1

所属・職名 氏年 年齢	主な役職歴	在職 年数	功績の内容
岩見沢市立 岩見沢小学校長 まつもと のぶひこ 松本 伸彦 (60歳)	全国連合小学校長会 理事 北海道小学校長会 副会長 空知校長会 会長	小学校教諭 17.00 市教育委員会指導主事 5.00 小学校教頭 6.00 市教育委員会指導室長 2.00 小学校長 7.06 計 37.06	昭和61年採用以来、本道の小学校教育及び教育行政に携わり、同一中学校区内におけるコミュニティ・スクールの導入推進や、登下校見守りシステムの構築、放課後や長期休業中の補足的な学習サポートの実施など、地域参加型の教育活動を展開し、地域とともに子どもを育む学校づくりを推進した。また、岩見沢市教育委員会指導室長として、市内小・中学校における支持的・親和的な集団づくりのためのピア・サポート・プログラムの導入や、岩見沢市立教育研究所を中核としたプログラミング教育の研修推進などを通じて、市内全小・中学校の教育力の向上に手腕を発揮した。さらに、全国連合小学校長会理事や北海道小学校長会副会長等の要職を務めるなど、本道の教育振興に貢献した功績は誠に大である。
北海道 手稲養護学校長 かまた のりこ 鎌田 典子 (60歳)	全国特別支援学校肢体不自由教育校長会 副会長 北海道特別支援学校 長会 副会長	特別支援学校教諭 16.00 北海道立 特殊教育センター研究員 2.00 北海道立 特別支援教育センター室長 3.00 特別支援学校教頭 5.00 特別支援学校副校長 2.00 特別支援学校校長 7.06 計 35.06	昭和63年採用以来、本道の特別支援教育及び教育行政に携わり、肢体不自由教育において、重度重複障がい児のコミュニケーション方法を中心に指導を行うとともに、障がいの重度・重複化、多様化に応じた実践研究を行った。病弱教育においては、ICTを活用した遠隔学習やテレワーク実習、分身ロボットを活用した体験学習を通して、社会参加につなげる教育課程を整備するとともに、道内で初めて、札幌市内の医療機関に入院する小・中学生への訪問教育指導を行う拠点校としての取組を道立特別支援学校で実施するなど、地域等と連携した学習活動の幅を広げた。また、東洋館出版社「特別支援教育」では「子供たちの可能性を最大限に生かす特別支援学校（病弱）の取組」を執筆するなど、自校の取組を発信するとともに、安心・安全に学ぶことができるための校内体制整備や授業改善に取り組んだ。さらに、全国特別支援学校肢体不自由教育校長会副会長や北海道特別支援学校長会副会長の要職を務めるなど、本道の教育振興に貢献した功績は誠に大である。
浦河町立 堺町小学校長 しなだ かずてる 品田 和輝 (60歳)	北海道小学校長会 理事 北海道道徳教育研究会 理事 日高地区校長会 会長	小学校教諭 17.00 小学校教頭 8.00 小学校長 10.06 計 35.06	昭和63年採用以来、本道の小学校教育に携わり、算数科のTTや習熟度別授業による少人数指導の充実を図るなど、児童の基礎学力の向上に努めるとともに、地域連携研修の主体校として、管内教職員の資質・能力の育成に向けた研修事業を積極的に行い、公開授業において成果を還元するなど、管内の学校教育の充実・発展に尽力した。また、現任校では、「学校力向上に関する総合実践事業」の指定校として、模擬授業形式による指導案検討など、授業改善につながる公開授業研修の工夫や、計画に基づく定期的なメンター研修による中堅・若手教員の育成など、教職員の資質・能力の向上に向けた取組を行い、各教科における専門的な視点や考え方を働かせた授業改善につなげるなど、その実績は高く評価されている。さらに、北海道小学校長会理事や北海道道徳教育研究会理事等の要職を務めるなど、本道の教育振興に貢献した功績は誠に大である。

所属・職名 氏年 名 年齢	主な役職歴	在職 年数	功績の内容
七飯町立 大沼岳陽学校長 おおはし ひろあき 大橋 宏朗 (60歳)	北海道小学校長会 理事 渡島小中学校長会 会長	中学校教諭(海外日本人 学校教諭会) 20.00 中学校教諭 7.00 中学校長 9.00 義務教育学校長 1.06 計 37.06	昭和61年採用以来、本道の小学校及び中学校教育に携わり、在外教育施設派遣時には文部科学省と連携し、オハイオ州内の日本語補習校における教員養成指導や学校経営指導の訪問を重ね、学校経営の安定化・活性化に注力した。 また、小中一貫の教育特性を生かした「4-3-2システム」による中1ギャップの解消に向けた取組や、大沼の歴史や地理、観光など、児童生徒の幅広い感受性を尊重し、自らの地域について主体的に学ぶ「大沼学」を取り入れた教育カリキュラムを実践している。 そのほかにも、令和5年度の「北海道小学校長会教育研究大会」において実行委員長を務め、全道の関係教育機関との連携などに尽力した実績は高い評価を得ている。 さらに、北海道小学校長会理事等の要職を務めるなど、本道の教育振興に貢献した功績は誠に大である。
江差町立 江差小学校長 たにぐち みつのが 谷口 光伸 (60歳)	全国連合小学校長会 理事 北海道小学校長会 副会長 檜山校長会 会長	小学校教諭 16.00 小学校教諭 8.00 小学校長 12.06 計 36.06	昭和62年採用以来、本道の小学校教育に携わり、特に道徳教育に広い視野と高い見識を持ち、奥尻町立青苗小学校では、北海道道徳教育推進校事業の指定を受け、児童の道徳性の育成のため、外部講師による講演会や、学校行事等との関連を図った指導の充実に努め、その成果を文部科学省初等中等教育局教育課程課調査官等の外部の専門家を招へいた公開研究会において発表したほか、管内での研究会や公開授業を通じて普及を図るなど、道徳教育の充実・発展に尽力した。 今金町立今金小学校では、文部科学省の「ICTを活用した教育推進自治体応援事業」の指定校となり、児童の要望や学習内容に合わせたICT機器の活用スキルの向上を目的とした総合的な年間指導計画の作成に尽力し、公開研究会等で発表することにより、管内の教育活動におけるICTの活用推進に貢献した。 さらに、全国連合小学校長会理事や北海道小学校長会副会長等の要職を務めるなど、本道の教育振興に貢献した功績は誠に大である。
留萌市立 留萌小学校長 いしだ まさき 石田 正樹 (60歳)	北海道小学校長会 理事 留萌管内小中学校長会 会長	小学校教諭 17.00 小学校教諭 8.00 小学校長 10.06 計 35.06	昭和63年採用以来、本道の小学校教育に携わり、特に生活科や算数科の授業実践や研究に取り組み、児童一人一人が主体的に活動する授業の創造を目指して尽力したほか、管内の各種研究大会を通じて授業者として積極的に教育実践の普及に努めた。 また、現任校では、「学校力向上に関する総合実践事業」の指定校として、全校を一つのチームと捉えた包括的な学校改善を推進した。特に、将来のスクールリーダーを継続的に輩出する仕組みの確立や、近隣中学校や地域全体と連携した教育環境の構築、ICT機器を活用した学びの充実に努める年間指導計画の作成などの取組を通じて教育活動の質を高め、その成果について、公開研究会において実践発表を行うなど、先進的な教育実践のモデル校として高い評価を得ている。 さらに、北海道小学校長会理事等の要職を務めるなど、本道の教育振興に貢献した功績は誠に大である。

所属・職名 氏年 年齢	主な役職歴	在職 年数	功績の内容
前稚内市 教育委員会教育長 おもて じゆんいち 表 純一 (70歳)	北海道都市教育委員会 連絡協議会 副会長	稚内市教育委員会教育長 10.07 計 10.07	平成24年の教育長就任以降、稚内市の「子育て運動」の理念を継承し、子どもの確かな学力に基づく生きる力の育成・定着を基本とした取組として、市内の小学生を対象とした「放課後学力グングン塾」を開催するなど、放課後等における子どもたちの学習機会を確保し、長年にわたり稚内市の教育の充実・発展に尽力した実績は高く評価されている。 また、稚内市民の生涯学習活動の拠点施設としての「生涯学習総合支援センター」の開設や、市民がカーリングをはじめとした各種スポーツやレクリエーションに親しむことができる「みどりスポーツパーク」の新設など、市民の幅広い学びを支援する拠点づくりへの取組や、稚内発祥の郷土芸能である「南中ソーラン」を市民に根付かせ、広く内外へ発信する取組として「子ども芸能祭・南中ソーラン祭」を開催するなど、稚内市の文化及び社会教育の振興にも貢献した。 さらに、北海道都市教育委員会連絡協議会副会長の要職を務めるなど、本道の教育振興に貢献した功績は誠に大である。
北見市立 北中学校長 おがた たかひと 緒方 隆人 (60歳)	北海道中学校長会 理事 北海道中学校体育連盟 副会長 オホーツク中学校体育 連盟 会長 オホーツク管内校長会 会長	中学校教諭 18.00 小学校教頭 2.00 中学校教頭 7.00 小学校長 2.00 中学校長 8.06 計 37.06	昭和61年採用以来、本道の小学校及び中学校教育に携わり、農業体験学習や地域の職場体験学習といった地域素材を生かした教育実践を通して、児童生徒の郷土愛や社会参画能力の育成に尽力した。 湧別町立富美小学校では、主に算数科において、児童の興味・関心に寄り添った教材開発や課題設定を通じて、複式学級特有の効果的な「わたり」の授業展開に焦点を当てた研究を進めるなどにより、指導方法についての検証改善サイクルを確立させ、児童一人一人の個性を生かした研究を推進し、管内の研究大会において成果を普及した。 また、オホーツク中学校体育連盟会長及びオホーツク管内校長会会長として、中体連運営の中核を担い、地区中体連の地域部活動や拠点校部活動について、中体連・教育長部会などの関係機関と連携を図りながら、部活動の実施について管内で統一した取組となるよう尽力した。 さらに、北海道中学校長会理事等の要職を務めるなど、本道の教育振興に貢献した功績は誠に大である。
帯広市立 大空学園義務教育 学校長 むらまつ まさひと 村松 正仁 (60歳)	帯広市中学校長会 会長	小学校教諭 3.00 中学校教諭(海外日本人 学校教諭含) 10.00 市教育委員会指導主事 6.00 中学校教頭 3.00 市教育委員会指導室長・ 企画監・担当部長・参事 11.00 中学校長 1.00 義務教育学校長 1.06 計 35.06	昭和63年採用以来、本道の小学校及び中学校教育並びに教育行政に携わり、教育行政においては、「帯広市学力向上推進プロジェクトチーム」を設立のほか、若手教職員向けの講座の開催や、G I G Aスクール構想に関わる教職員への研修グランドデザインの提示など、小・中学校への指導助言を重ねながら、学校改善と教職員の資質・能力の向上に大きく貢献した。 また、十勝管内初となる施設一体型の義務教育学校の初代校長として、多様性を認め、子どもを主語とした教育課程である「レインボープログラム」に基づく、全学年合同による学校行事の開催や地域の少年団への部活動の乗り入れ、第5学年からの教科担任制の導入などに尽力した。 このほか、道内の義務教育学校における教育の質の向上を目指した「がくえんネット研究実践事業」の指定校として、オンライン上での情報共有会などを通じて、自校の取組について発信するなど、本道の小中一貫教育の振興に貢献した。 さらに、帯広市中学校長会会長の要職を務めるなど、本道の教育振興に貢献した功績は誠に大である。

所属・職名 氏年 名 年 齢	主な役職歴	在職 年数	功績の内容
釧路市立 釧路小学校長 さ さ き ゆたか 佐々木 豊 (60歳)	北海道小学校長会 理事 北海道小学校理科研究 会 副会長	小教諭 18.00 小教類 10.00 町教育委員会指導室長 3.00 小学校長 6.06 計 37.06	<p>昭和61年採用以来、本道の小学校教育及び教育行政に携わり、検証改善サイクルを機能させた組織的な国語・算数の基礎学力の向上に努め、各種協議会や研究大会を通じて、教育実践を発表した。また、地域人材の活用による学習支援やコミュニティ・スクールの導入推進などを通じて、積極的に地域と連携するなど、地域に開かれた学校づくりを推進した。</p> <p>標茶町教育委員会指導室長として、子どもたち自身の協議による「標茶町いじめ根絶子ども会議」を企画、実施するなど、いじめ問題に対する意識の向上や対応に力を注いだ。また、特別な支援を要する児童や家庭環境に問題を抱える児童等への指導の在り方について、北海道教育大学釧路校や管内の特別支援学校の管理職等を招へいた研修を通じて、学校全体で迅速かつ誠意ある対応に努めることの共有を図り、町内の特別支援教育や生徒指導に果たした役割は高く評価されている。</p> <p>さらに、北海道小学校長会理事や北海道小学校理科研究会副会長の要職を務めるなど、本道の教育振興に貢献した功績は誠に大である。</p>

※ 年齢及び在職年数は、令和5年（2023年）9月30日現在